

東京電力福島第一原発事故 発生から10年

原発 いのち みらい

講 師



菅谷 昭さん

松本大学学長／元松本市長



小出裕章さん

元京都大学原子炉実験所助教



おしどりマコ・ケンさん

芸人・記者

2021年 3/14 [日] 14:00~ 17:00 ホテル金沢 2階 ダイヤモンド

後日、石川県保険医協会のホームページにて、アーカイブ配信を行う予定です。

ホームページ <http://ishikawahokeni.jp/>



〈ご案内〉

東京電力福島第一原子力発電所事故の検証と核なき未来をテーマに開催してきた原発・いのち・みらいシリーズ講演会。第18回目となる今回は、石川県保険医協会が東電福島原発事故後に「原発・いのち・みらいプロジェクト」を立ち上げた原点に立ち返り、プロジェクト名「原発・いのち・みらい」をテーマに開催します。お招きする講師は3者。 Chernobyl の子どもたちの治療経験から、東電福島原発事故発生当初より健康影響について警鐘を鳴らしてきた元松本市長の菅谷昭さん。夢を持って原子力の道に進まれましたが、学生時代にその危険性や問題点に気づき、原子力研究者の立場から警告を発し続けてこられた小出裕章さん。そして、原発事故以降「知ること」の重要性に気づき、芸人の傍ら東京電力の会見に誰よりも多く参加、原発問題以外にも様々な現場に足を運び情報発信してこられたおしどりマコ・ケンさんです。

今年3月で東電福島原発事故発生から10年が経過しますが、私たちはこれを節目とは捉えておらず、核のない未来に向けた通過点だと思っています。講師3者と参加者の皆さんとともに、今ある現実に向き合い、未来を見据えた議論を深めるこの講演会にぜひご参加ください。

MEMO

石川県保険医協会とは？

- 県内で働く保険医（医師、歯科医師）約 1030 人で構成する団体。「保険医の生活と権利を守り、国民の医療と福祉を充実させること」を目的として 1975 年に設立。全国の保険医協会・医会の会員約 10 万 7 千人と共に活動しています。
 - 日頃は、医療保険制度・診療報酬の改善のための活動や、会員医療機関の日常診療に役立つ多様な取り組みを行っているほか、人々の健康と命を守る医師・歯科医師の団体として、様々なテーマで市民公開講演会を開催しています。
 - また、東電福島第一原発事故に対しては、「原発・いのち・みらいプロジェクトチーム」を結成し、徹底した情報開示と事実の検証の必要性を内外にアピールする取組みも行っています。

当会の活動の詳細は、石川県保険医協会のホームページをご覧ください。 ホームページQRコード→



■ プログラム

司会：種市靖行・打出喜義（石川県保険医協会理事）

14:00	開会挨拶（会長 三宅靖）
14:05～15:35	第1部：講演 ①小出裕章さん 困難を極めるフクシマ事故の収束 ②おしどりマコ・ケンさん 関心と監視は自分と世界と未来のため ③菅谷昭さん 福島原発事故の小児甲状腺検査の問題点 — チェルノブイリ原発事故医療支援の経験を通して —
15:35～15:45	休憩 ※この時間に質問用紙を受付にご提出ください。
15:45～17:00	第2部：ディスカッション
17:00	閉会挨拶（司会）

※上記の時間は目安です。時間が前後する可能性がありますことを予めご了承ください。

■ 資料

① 講師のご紹介	4 ページ
② 小出裕章さんの資料	5-9 ページ
③ おしどりマコ・ケンさんの資料	10-22 ページ
④ 菅谷昭さんの資料	23-28 ページ
⑤ 出前講座の案内	29-30 ページ
⑥ 石川保険医新聞 2021年3月号特集「福島からの手紙」 http://ishikawahokeni.jp/lettersfromfukushima/	
⑦ 質問用紙（省略） 申し訳ありませんが、YouTubeLiveでご参加の方からの質問は受け付けておりません。以下の「参加者アンケート」にご意見等をお寄せください。	
⑧ 参加者アンケート https://forms.gle/kn7ediuXbHfWqhpt8	
⑨ 原発ゼロ基本法の制定を求める請願署名 https://bit.ly/38ungjQ	
⑩ 75歳以上医療費窓口負担2割化撤回を求める請願署名 https://hodanren.doc-net.or.jp/news/r75/index.html	
⑪ 日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名 https://bit.ly/3tcpNH5	

講師のご紹介

■菅谷昭さん

医師。元松本市長。現在、松本大学学長。1986年4月26日に発生したチェルノブイリ原発事故により、ベラルーシ共和国で子どもの甲状腺がんが多発していることを知り、信州大学を辞し、1996年にベラルーシに渡る。甲状腺専門の外科医として、自身の知識と技術をささげ、現地で5年半の医療支援活動を行う。帰国後、長野県衛生部長を経て、松本市長を4期務めた。2020年10月より松本大学学長を務める。

- 2014年開催 第9回原発・いのち・みらいシリーズ講演会講師（テーマ：「チェルノブイリ事故の医療支援の経験から福島を考える」）

受付にて著書『原発事故と甲状腺がん』を販売中⇒



■小出裕章さん

元京都大学原子炉実験所助教。工学者（原子核工学）。原子力の平和利用に夢を抱いて東北大学工学部原子核工学科に入学。原子力を学ぶことでその危険性に気づき、伊方原発裁判、人形峠のウラン残土問題、JOC臨界事故などで、放射線被害を受ける住民の側に立って活動。原子力研究者の立場から警告を発し続けてきた。

<ホームページ>（講演日程等） <http://www.go.tvm.ne.jp/~koide/Hiroaki/lecture.htm>

- 2012年開催 第5回原発・いのち・みらいシリーズ講演会講師（テーマ：福島原発事故の現状と未来）

受付にて近著『フクシマ事故と東京オリンピック』『原発事故は終わっていない』を販売中 ⇒



■おしどりマコ・ケンさん

芸人、記者。東京電力福島第一原子力発電所事故（東日本大震災）後、「知ること」の重要性に気づき、芸人の傍ら東京電力の記者会見、様々な省庁、地方自治体の会見、議会・検討会・学会・シンポジウムを取材。また現地にも頻繁に足を運び取材し、その模様を様々な媒体で情報発信をしている。

<Twitter> おしどりマコ @makomelo / おしどりケン@oshidori_ken

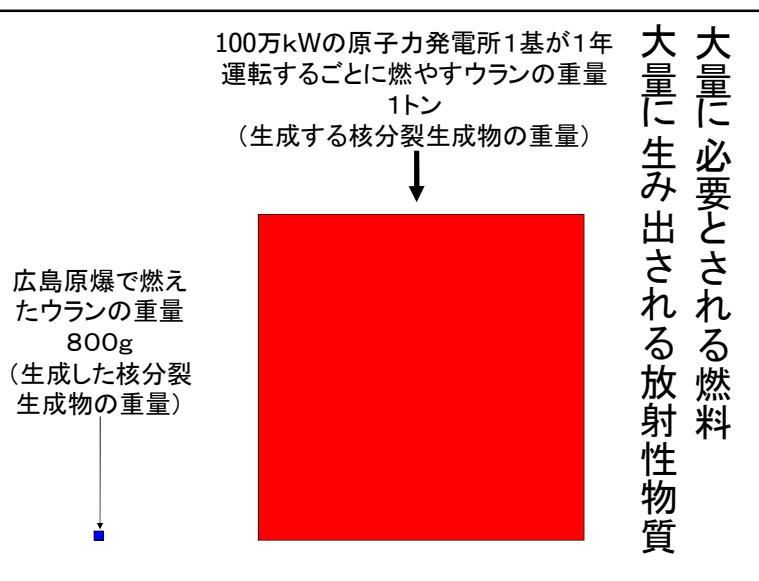
<おしどりポータルサイト> <http://oshidori-makoken.com/>

- 2015年開催 第10回原発・いのち・みらいシリーズ講演会講師（テーマ：「漫才を武器に、原発事故を追い続ける！芸人ジャーナリストおしどりマコ・ケンの福島取材報告」）
- 2019年開催 第17回原発・いのち・みらいシリーズ講演会講師（テーマ：芸人・記者おしどりマコ・ケンの原発事故取材報告 まず知ることが社会を変える）

石川県保険医協会第47回総会記念企画 2021年3月11日(木)
／第18回原発・いのち・みらいシリーズ講演会
東京電力福島第一原発事故発生から10年「原発・いのち・みらい」

困難を極める フクシマ事故の収束

小出 裕章



今回の企画は、当協会の総会記念企画に位置付けているほか、東電原発事故発生から10年という節目で、市民とともにスケールの大きな企画を作りたいと思っています(但し、コロナの影響があるため、会場参加は限られていますが、その分オンライン生配信も行い、多くの方とシェアしたいと思っています)。

「核なき未来」を見据え、若い世代の参加も予定されています。昨日も保養実施団体から問合せがあり、大学生を中心とした多数のメンバーが、会場参加を予定しているとの連絡がありました。確かに、「三者講師・三時間企画」となると、講師の皆様に冒頭でお話しいただく時間は各30分程、非常に短いものとなります。しかし、今回の企画は、その後の「鼎談」部分に重きを置くことを主眼にしております。

小出先生からは、福島原発の廃炉、志賀原発、隣県・福井のもんじゅ等の廃炉問題。菅谷先生から、チエルノブリでの治療経験を踏まえた、福島の県民健康調査の問題。おしどりマコケンさんからは、福島原発の最新情報。これら踏まえた形での鼎談、そこに私たちプロジェクトメンバーも参加して、大いに学び、議論を深めることができたらと、企画について知恵を出し合っております。本来ならば半日企画で開催したいところですが、コロナの状況や参加者のことを考えると、3時間が限度ではないか、となりました。

先日のメールにも書きましたが、「東日本大震災・原発震災10年、そのあとに」の先生の寄稿を拝読し、10年前の抱いた不安や心の底からの怒りやらが一気にこみ上げてきました。3月には、10年前の初心にかえるつもりで、小出先生のお話、菅谷先生のお話、マコケンさんのお話を、是非お聞きしたいと思っています。

電力の恩恵は都会が受け、危険は過疎地に押し付けられた。こんな不公平・不公正は初めから認めてはいけない。日本で運転された57基の原発はすべて自由民主党が政権を取っている時に認可された。

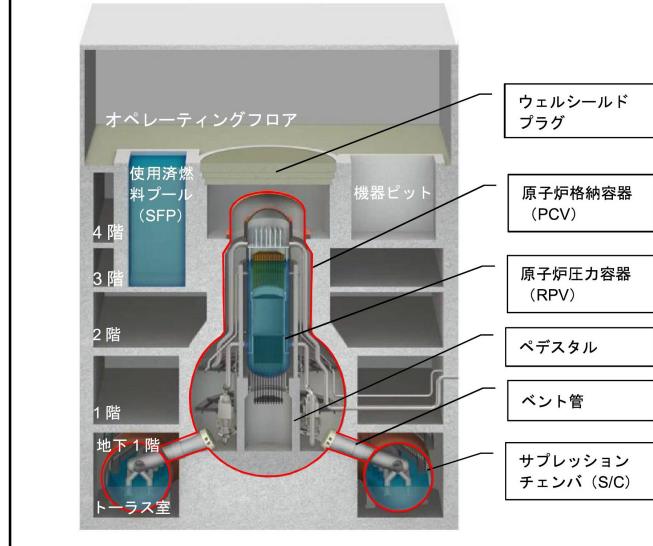


存在していた放射能の量と放出された量

セシウム137	放射能量 (PBq*)	広島原爆換算
炉心内存在量	700	7900
大気中への放出	15~36	170~400
海への放出	3.6~41	40~460
滞留水に存在	140	1600
広島原爆	0.089	1

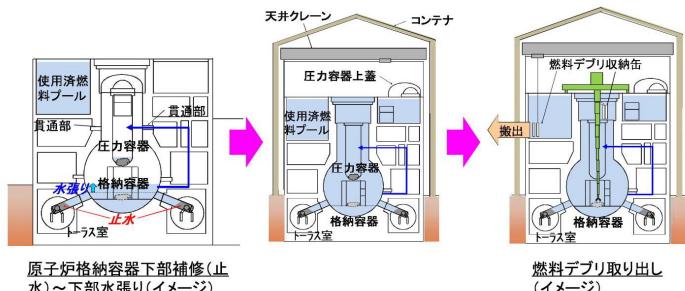
*) PBqはペタベクレル、ペタは10の15乗で、1000兆倍を示す。

原子炉建屋内構造図

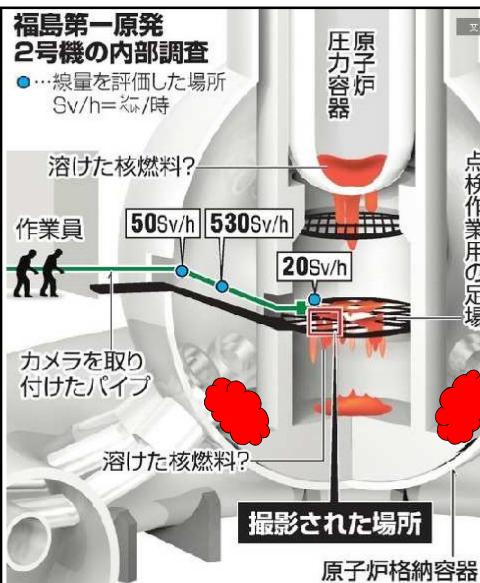


国と東電のロードマップ

国と東電は熔け落ちた炉心を掘り出し30~40年で事故を収束させると言っていた。



もちろん、掘り出したところで放射能は消えない。
それは10万年から100万年の管理を求める。

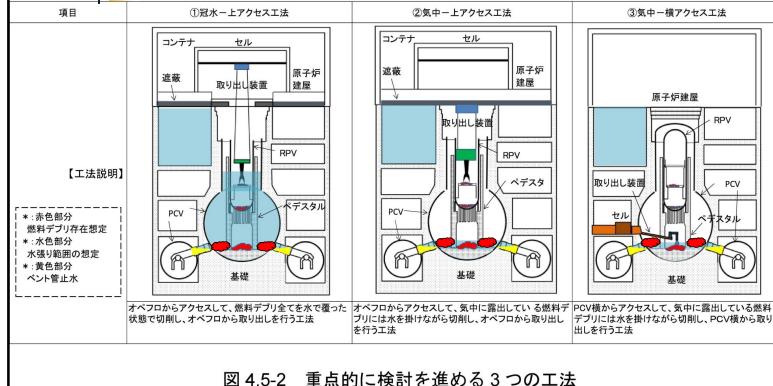


2017年2月

ペデスタルには作業員が出入りする通路が開口しており、熔け落ちた炉心はそこからペデスタル外に出てしまっていて、原子炉圧力容器上部から覗いても見ることすらできないし、掘り出すことなど全くできない。

国と東電はロードマップを書き換え、格納容器の横から穴を開けて、熔け落ちた炉心を取り出す「気中一横アクセス工法」が有力と言い出した。しかし、そんなことをすれば、龐大な被曝作業になってしまう。

100年後にも事故は収束できない。



Chernobyl Nuclear Power Plant's sarcophagus
It can't be done in Fukushima either



Chernobyl Nuclear Power Plant's Unit 2 Sarcophagus
Life expectancy is 100 years...?



Before sealing the sarcophagus, the reactor building's pool must be **extended**
Fuel assemblies must be removed from the reactor building.

	未使用 (体)	使用済 (体)	取り出し作業開始 目標
1号機	100	292	2023年度目標
2号機	28	587	2023年度目標
3号機	52	514	2019年4月から始め 21年2月28日に終了
4号機	204	1331	2013年11月から始め 14年11月に終了

第2部 補足資料



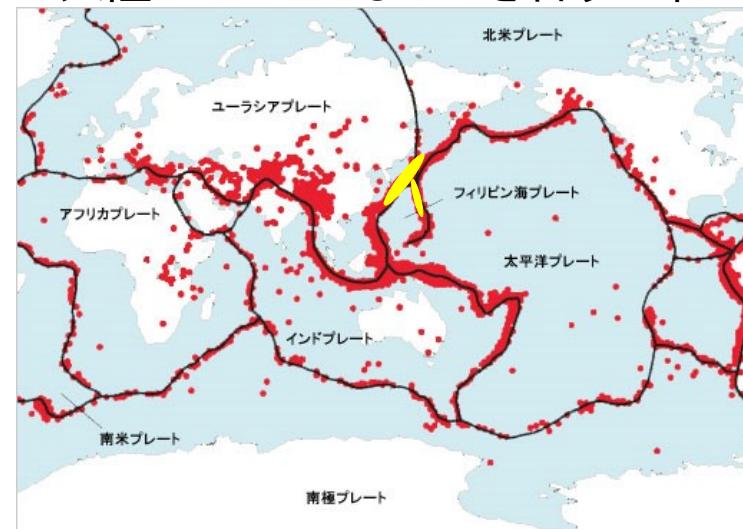
2021年2月13日の地震

2011年3月11日の東北地方太平洋沖地震はマグニチュード9.0、広島原爆が放出したエネルギーに換算すると3万発分という途方もないエネルギーを放出した。

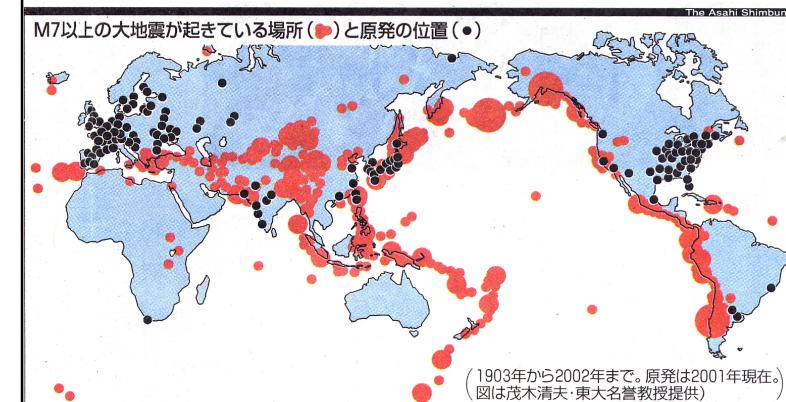
2021年2月13日の地震はマグニチュード7.3、広島原爆が放出したエネルギーに換算すると89発分のエネルギーを放出した。1995年神戸で6000人以上の死者を出した阪神・淡路大震災を引き起こした地震と同じ大きさの地震であった。

日本は、太平洋、フィリピン海、北米、ユーラシアの4枚の大陵プレートが衝突する場で、世界の地震の1割～2割が発生するという世界一の地震国である。地震など誰も望まないが、いずれまた必ずやってくる。

大陸プレートがひしめき合う日本



地震の巣と原発の立地点



(1903年から2002年まで。原発は2001年現在。
図は茂木清夫・東大名誉教授提供)

フクイチでの被害

使用済み燃料プールからの溢水

格納容器内の水位低下

格納容器内の窒素の流出

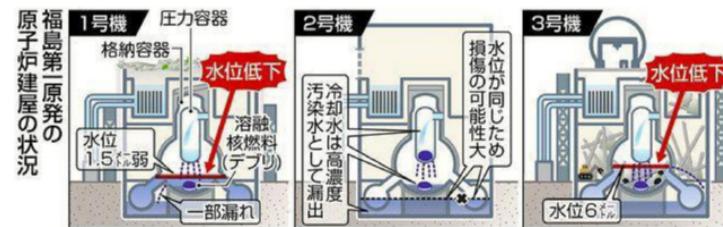
それ以外に明らかになってきたこと

壊れた地震計が修理されずに放置されていた

1, 2号機のベント配管が排気塔の根元までしかなかった

今後まだまだ出てくる？

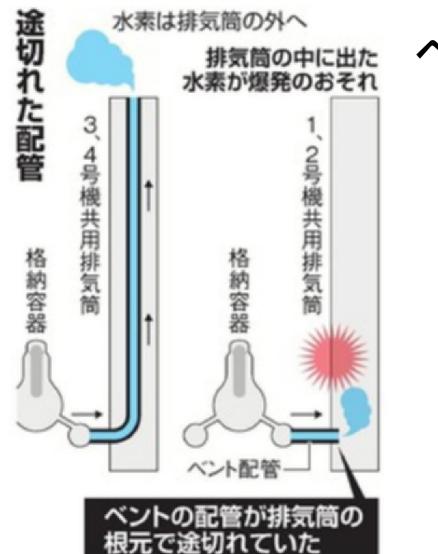
1号機、3号機の格納容器内水位が低下した。



もともと、格納容器は放射能を閉じ込める防壁であり、完璧に機密でなければならない。それが2011年3月11日に破壊された。今回その破壊が大きくなったり、あるいはまた別の場所で破壊が起きた。

そのため、水面上に現れた破壊された部分から、それまでは水素爆発を防ぐために封入されていた窒素ガスが漏れ、封入できなくなってしまった。

途切れた配管



ベントとは何か？

格納容器は放射能を閉じ込めるための最後の防壁。その中の気体は環境に漏らせてはならない。

格納容器の大破壊を避けるため、意図的に内部の放射能を環境に放出するものがベント。そんな操作を必要とする事故は起きないといわれてきた。しかし、予想もしない事故が続いたため、東電もベント配管を設置したが、もともと本気ではなかった。

関心と監視は 自分と世界と未来のため

2021/3/14
おしどりマコ・ケン

はじめに

原発事故が続いて10年です。

コロナ禍の緊急事態宣言は発令されたり解除されたりですが

原子力緊急事態宣言は、2011年3月11日から、ずっと発令中です。

誰かの意見を鵜呑みにせず、自分で情報を探して考えること、

何かの「報告書」を鵜呑みにせず、これはどういう情報を元に誰が作ったの？ということに留意すること、

これは、原発事故の問題だけでなく、その他の様々な社会の問題を、解決の方向に導くことでもあります。

ある「情報」が、「事実」と「筆者の意見」を区別して著しては？ 引用元を明示しては？ ということに気を配る方が増えれば、

世の中からフェイクニュース、と呼ばれるものは、少し減ることと思います。

また、自分で情報を探して、考えて、議論する、という一連の技術は、自分の人生に問題を抱えたときに、役立つ技術でもあります！

そして直接に自分に関係がなくても、何かの問題に関心を持つ人、監視する人が世の中に増えること自体が

ちょっとずつ社会を変えていくことだと思います。

今日は足を運んで、耳を傾けくださいありがとうございます。

この配布資料には、今日の話に盛り込めなかったことを入れておきます。読み物としてもお使いください。

コロナ禍の中 取材、傍聴無しで 福島で行われた 「ご意見を伺う場」

漁連だけでなく、
様々な業種の組合長が
意見を述べました。

皆、汚染水海洋放出に
反対でした。
私の取材した限り。

その中で、旅館ホテル組
合理事長の、小井戸さん
の発表されたものご紹
介します。

福島第1原発 ALPS 处理水の取り扱いに関する福島県旅連提言書

令和二年四月六日
福島県旅館ホテル生活衛生同業組合
理事長 小井戸英典

わたしたち福島県内の旅館ホテル業界は、平成二十三年の原発事故に起因する放射能拡散の実害により、いまだに大きな経済的なダメージを受けていることはご理解をいただいているかと存じます。これは、実態がない事象を感情的に忌み嫌うことから発生する「風評被害」などでは断じてございません。放射能という人体に害のある物質が空気中に拡散し土壌などに蓄積した物理的事象に怯え忌避する人間の本能に由来するものであると我々は当初より考えています。

致死量に満たない毒入りリンゴだから食べても安心だと言われても、食指が動く者はほぼ居ないであろうことは、容易に想像が出来るでしょう。その安心の度合いは毒の希釈の濃淡で増減するのでしょうかけれども、どれだけ希釈しても不安をゼロに至らしめることが容易ではないことは、今の福島の現実が証明しています。福島県の旅館ホテル業界は、いまだに物理的要因による経済的な損害を受け続けている被害者であると認識いただけるよう冒頭にお願い申し上げます。

次に、当初は公表されていなかった多核種除去設備等処理水（以下、処理水という）の約8割にトリチウム以外の放射性物質が残存していた問題についてです。この事実が積極的に公表されていなかったことは、福島県民はもとより、国民全体の期待を裏切るものであると強く抗議するところです。しかしながら、このことで当組合として態度をことさら硬化させることは今後の対策実施に大きな影響を与えるかねないこと、また、その残存の理由について、当初は敷地境界における被曝線量を下げるなどを重視した結果であったことなどの理由により、今後に最終処分される全ての処理水については、トリチウム以外の放射性物質の告示濃度以下への浄化を確実に実行することを約していただくことで、問題視の対象から外したいと考えます。

ところで、処理水に残存するトリチウムについて、他の核種と同等のレベルまで除去するよう要請するべきとの意見も組合内に存在します。我々は科学知識の専門家ではないので具体的な反論は出来ませんが、これについては令和二年二月一〇日付け「多核種除去設備等処理水の取扱いに関する小委員会報告書（以下、報告書という）」に記載された「トリチウム（同位体）の分離技術について」の内容を信頼するのであれば、完全に分離することは困難であるとのことです。また、同報告書にある「国内外の原子力施設からのトリチウムの年間放出量について」を見る限り、既に諸外国では相当量のトリチウムが輩出されているという既成事実から推察すると、残存していても一定の安全は担保されているものと思慮できることなどの理由により、報告書に記載の数値等に齟齬がないことを前提として、トリチウム残存のまでの処理を肯定するものいたします。

さて、報告書にある処理水の最終処分案の概要を見る限り、いずれの案も多かれ少なかれ旅館ホテル業界を含む観光業へ直接影響を与えると記述されているようございます。そしてその処分とは、最終処分される場所が地中であるか海洋であるかあるいは空中であるかの違いがあるだけで、いずれにしろ福島県内に放出または投棄することを結果として想定しているようございます。

そうであるならば、その処理水にはトリチウムなどの放射性物質が含まれていることは虚構ではなく事実であることから、この処理をする期間にもたらされる消費の落ち込みによって受ける旅館ホテルの損失は、風評被害ではなく故意の加害行為による損害であると我々は認識するところです。国はこの事実を認め、不法であるか否かを争うことを放棄し、妥当な範囲の損害を被る旅館ホテルに対する損失の補填などの措置を速やかに且つ処理水の処分が終了するまでの全期間にわたって講じることを求めるものです。この件に関し、個別の争いに持ち込まれた場合は体力のない事業所にとって事実上の破産命令となりかねません。前例のない思い切った対処を切に願うものでございます。

この方針が定められることを期待したうえで処理水の具体的な処分方法についての意見を述べさせていただきます。

原子力発電の事故による観光等への被害が収束していない福島県内の状況下で、さらに放射能を撒き散らす行為についてはとうてい許容できるものではない、というのが当業界の大勢を占める意見です。原発事故に起因する放射性廃棄物の最終処分について県外搬出を定めているように、処理水についても同じように県内の処理を回避すべきという最低限の配慮があつてしかるべきです。昨年十月に松井大阪市長が処理水の大坂湾での放出処理受け入れを表明し、吉村大阪府知事がそれに同調したという事例があるので、他の都道府県で受け入れ先がない訳ではありません。受け入れ先を丁寧に探すのも國の責務であります。

しかし意見書には敷地外移送に際しての時間やコスト、手間や法の壁があることを理由に、否定的な立場である記述となっています。それに加え、俯瞰してこの様子を見ますれば、福島の不要なものを他所に押しつける行為だと感じられるもので、福島県外の世論からすると、福島の評価を下げる行為であるとも感じます。旅館ホテルは全ての都道府県に存するものであり、福島のつらさを他所に押しつけることは信義に反します。よって、処理水については、至極残念ではございますが、福島県内に於いて処分するのが最も道義的な選択ではないかと思慮いたします。

そして、地層注入、地下埋設、海洋放出、水蒸気、水素放出の5案について、意見書では、技術的な見地から実績のある水蒸気放出及び海洋放出が現実的な選択肢であるとまとめられています。この二択で考察した場合、水蒸気による大気中への放出は、原発事故による放射能の拡散と同じように受け止められかねず、福島県内全域はもとより他県にまで影響が出てしまうことが想定されます。観光的な影響が比較的狭い地域に抑えられる海洋放出を選択することが、我々旅館ホテル業界にとっては総じて最も損失の少ない処分案であると考え、組合の総意として申し上げるところです。

尚、繰り返しになりますが、この海洋放出による直接的な影響は、風評被害ではなく実害であり、それはその処分が終了するまで続くものになります。海に人が集まることで成り立つ業態、あるいは海産物があることで成り立つ業態等々の、海が存することでその価値を生み出してきたホテル旅館につき、国はしっかりと個別に意見を聞き、補償などの対応を敵にとつていただくよう重ねてお願ひするものです。

以上、福島県旅館ホテル生活衛生同業組合としての提言とさせていただきます。

切り捨てられた内部被ばく

事故直後、何を食べ、飲んでいたか、という内部被ばくは

ほとんど調査がなされていません。

個人の記憶による自己申告のみです。

けれど、私は取材で、恐らくかなりの汚染されたものを摂取した方々がおられることを知りました。

自己申告では、自分が何を食べたか分からぬのです。

けど、何を提供したかを覚えている方はいます。

バチカンの教皇さまに手紙を書きたいと、相談を受け、私がお手伝いをしたことがあります。

全文は下記にありますが、飯館村の愛澤さんの告白の抜粋をお読みください。

<http://oshidori-makoken.com/?p=1667> 「原発事故についてのローマ教皇からの手紙」 より



勝谷太治司教さまが、教皇謁見において、おしどりマコさんと飯舘村被災者による原発の不当性について述べた書簡を手渡したときの写真です。



ローマ法王:原発は「バベルの塔」 現代文明のひずみ指摘

毎日新聞 2015年03月22日 09時00分 (最終更新 03月22日 09時31分)



フランシスコ法王＝AP

拡大写真

関連記事

- ・【保守派の抵抗が表面化 正念場迎えたバチカン改革】
- ・ローマ法王が米議会合同会議で初の演説へ 9月訪米
- ・く世界版・水戸黄門』国際政治で存在感高めるフランシスコ法王
- ・「信仰守り250年、法王から黄辞」長崎で枢機卿
- ・「文明」を猝く畜行…
- ・<書評>『人類5万年 文明の興亡 なぜ西洋が世界を支配しているのか』

【ローマ福島良典】フランシスコ・ローマ法王は20日、バチカン（ローマ法王庁）を公式訪問した日本の司教団と会見。東日本大震災の福島第1原発事故に関連し、人間のおとりと現代文明のひずみの一例として原発の開発に警鐘を鳴らした。法王が原発の安全性に言及するのは異例。

バチカンは会見の詳細を発表していないが、日本司教団によると、法王は「人間は神の定めた自然のおきてに逆らってはいけない」と指摘。原発を旧約聖書の「バベルの塔」になぞらえ「天に届く塔を造ろうとして、自らの破滅を招こうとしている」と表現し、「人間が主人公になって自然を破壊した結果の一つ」と述べたという。法王は「原発廃止」や「脱原発」には言及していないが、現代文明の抱える課題として懸念を表明した形だ。

また、法王は広島、長崎への原爆投下と第二次世界大戦終結から70年を迎えることに触れ、核兵器製造を「人類の悪行」と非難したという。日本司教団は法王が日本に向けた平和のメッセージを発表するよう依頼した。

法王は禁教下に信仰を死守した潜伏キリストを「指針」とたたえた。キリスト教大名の高山右近（1552～1615）がカトリックで「聖人」に次ぐ「福者」に認定される見通しで、法王は来年、日本で予定される列福式に「可能なら行きたい」と述べたという。



教皇さまからのお返事 (マコ宛と、愛澤さん宛)

To Ms Mako Oshidori

I am deeply grateful for your letter sharing with me your experience of the Fukushima nuclear station disaster. I appreciate also your evident concern for all those affected by this tragedy, especially for the poor and the defenceless who all too often know the greatest suffering and injury in such an incident and its aftermath.

In your work as a journalist, may you continue to seek the truth and make known the needs and concerns of all in the community, thus contributing to a more just and peaceful society.

With the assurance of my prayers, I invoke upon you and your loved ones the divine blessings of healing and strength.

From the Vatican, 8 May 2015

From 2



To Mr Takumi Aizawa

I am deeply grateful that you wrote to me to share your experience of the Fukushima disaster. Your love and concern for the people of Iitate Village and those who sought refuge there from the earthquake and tsunami are very evident. This is true not only in the generous care you offered them during that tragedy, but also in your efforts to prevent such an accident from ever occurring again.

In the midst of this suffering, you responded to the needs of the people with the few resources at your disposal. May you find peace in recalling that your service to those in the shelter at that time was motivated by your compassion for them, and was in response to their immediate needs.

With the assurance of my prayers for you and for all those affected by the Fukushima nuclear power station accident, I invoke the divine blessings of healing and strength.

From the Vatican, 8 May 2015

From 3

愛澤さんから教皇へのお手紙の抜粋

私は福島県の飯舘村の愛澤卓見といいます。飯舘村は今回の原発事故で最も汚染された地区です。また、最も避難が遅れた地区でもあります。この地区で起きたことをお知らせしたいのです。

この話は私自身の罪の告白にもなります。事故直後、原発から離れた山村である飯舘村には津波を逃れた人々が避難してきました。また、原発事故を恐れた人々も避難してきました。人々は、いくつかの山を隔てた飯舘村であれば安全だと考えたのです。当時、私は村の小学校で働いていました。その体育館は村で最も大きな(彼らのための)避難所となりました。13日の開設から18日の閉鎖までの期間、避難所に留まり働いていました。2011年の3月は季節外れの雪が降る寒い日々でした。体育館の暖房は十分ではありません。避難してきた方々にはお年寄も多く、寒さと高血圧を原因とした脳溢血や心筋梗塞が心配でした。薬もありません。私たちにできることは水分を多く取らせることだけでした。しかし、その後、飯舘村の水道水が放射性物質で汚染されていたことが明らかになったのです。

飯舘村に避難指示が出て以降、私は自分たち飯舘村の住民になにが起きたのかを調べました。いくつかの記録を調べていく中で、飯舘村の「井戸水を使っていた家庭」より避難所に来ていた人々の被曝量が大きいことに気づきました。

私は沈黙していました。政府は飯舘村の住民に対してさえ、「健康被害は発生しない」というスタンスを取っています。科学者は被曝による健康被害を危惧する人々を「愚かである」と罵ります。事実を口にすることは、今現在、幸せに生活している当時の避難者の人生に影を落とすだけかもしれないのです。

私はカトリック信者ではありませんが、神に祈ります。どうか、私の罪を罰してください。沈黙していたのは私です。彼らは水道水の汚染が深刻だった可能性を知らされていないのです。知っていたのは私です。

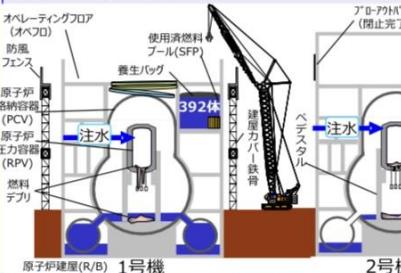
取り組みの状況

2月13日に発生した地震による外部への影響なし

2月13日に福島県沖を震源とする地震（マグニチュード7.3）が発生しました。

点検の結果、5、6号機及び共用の使用済燃料プール付近において、プール水が溢出したものと思われる水溜り（計3,000cc程度）や5、6号機の滞留水等を貯留しているフランジタンクから漏えいを確認しました。また、ガレキを入れたコンテナの一部の転倒や多核種除去設備サンブルタンク/処理水タンクに位置ずれなどを確認しましたが、いずれも外部への影響がないことを確認しております。

なお、地震発生時は監視データを基に環境への影響がないことを確認し、すぐに情報発信するとともに、その後、点検結果に基づき順次、情報発信しております。引き続き安全の確保に努め、迅速かつ透明性の高い情報発信に努めてまいります。



2号機燃料取り出しに向けた検討状況及び作業の進捗について

2024~2026年度の燃料取り出し開始に向け、燃料取扱設備等の設備の設計を進めております。

また、原子炉建屋最上階の作業環境整備として、現在、残置物作業後の線量調査を実施し、さらなる線量低減策を検討してまいります。

なお、原子力規制委員会の調査で、格納容器上部の蓋に大量の放射性物質の付着が具体的に確認されたことについて、十分に配慮しながら、燃料取り出しに向け準備を進めてまいります。

◆ 1 ~ 3号機の原子炉・格納容器の温度は、この1ヶ月、約15°C ~ 約20°C^{※1}で推移しています。
また、原子炉建屋からの放射性物質の放出量等については有意な変動がなく^{※2}、総合的に冷温停止状態を維持していると判断しています。

※1 号機や温度計の位置により多少異なります。

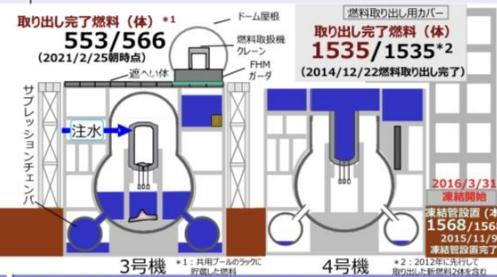
※2 1 ~ 4号機原子炉が建屋からの放出による被ばく線量への影響は、2021年1月の評価では敷地境界で年間約0.00004シーベルト未満です。
なお、自然放射線による被ばく線量は年間約2.1シーベルト（日本平均）です。

1・3号機のPCV水位低下を確認
外部への影響はなく、慎重に監視継続

原子炉格納容器（以下、PCV）水位が、1号機は2月15日以降、3号機は2月17日以降より低下傾向にあることを確認しました。

また、水位の低下により、2月21日には、1号機のPCV内の圧力が注水停止試験時と同様に低下したことを確認しております。本事象により、敷地境界のモニタリングポストやダストモニタ等に有意な変動はなく、外部への影響はありません。

原子炉への注水は適切に行われていることを確認しておりますが、水位低下の要因として、2月13日に発生した地震によるPCV損傷部の状況変化が考えられ、引き続き慎重に監視してまいります。

3号機の全ての燃料が吊り上がることを確認
取り出し作業完了へ向けて順調に進捗～553体/566体～

燃料上部のガレキ除去等を実施し改めて吊り上げ試験を実施した結果、使用済燃料プールに残る全ての燃料について、吊り上げが可能であることを確認しました。

2月3日より、ハンドル変形燃料（合計18体）の取り出しを開始し、これまでに553体の取り出しを完了しております。

取り出し作業完了に向けて、引き続き安全第一で作業を進めてまいります。

D排水路新設で効果的に豪雨リスク解消へ
2022年度台風シーズン前に機能発揮目指す

近年国内で頻発している大規模な降雨に備えD排水路の新設を計画しております。

豪雨時における敷地内の施設への影響を把握するため、浸水シミュレーションを実施した結果、1~4号機建屋周辺の浸水は、概ね解消されることが確認されました。

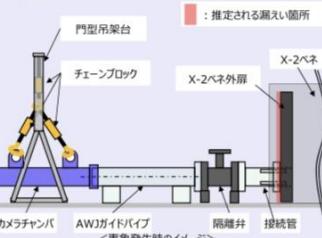
2021年2月から準備工事を開始しております。2022年度の台風シーズン前に整備完了を目指してまいります。

1号機PCV内干渉物調査準備における
圧力低下事象の原因を究明

1月21日に干渉物調査用のカメラ装置を挿入するための作業を実施したところ、原子炉格納容器内圧力が低下する事象が発生しました。

原因は、新規カラ装置の取付作業により負荷を加えたことにより、X-2ベネ外扉シール部から漏えいが発生したものと推定しています。

対策として、新規カメラ装置取付作業時の負荷低減、当該シール部の補強を行ったうえで干渉物調査を進めてまいります。



さいごに、では無くて、まだまだ、つづく！！

私は、今、コロナ禍の取材もしています。

2020年1月に厚労省とWHOに記者登録したときは、まだ「新型肺炎」と呼ばれていました。

いつだって未来は予想つきませんが、

映画の1シーンのような原発事故が日本で起こることも、

世界中がウィルスの感染におびえることも、想像できませんでした。

過去の「密な」写真を見ると、今はパラレルワールドにいるようですが

価値観と生活がひっくり返るような出来事はいつだって突然おこります。

いや、出来事は「突然」起こるのですが、それにどれくらい対処できるかは、普段が、私たち全員が作るのだと思います。

日本の原発事故を見て、世界で一番初めに脱原発に政策を変えたドイツを何度も取材して

「でも、ドイツが自国で原発事故がおこったらどう対応するのだろう？」と思っていました。

コロナ対策で、ドイツは世界の中で群を抜いている国の一つです。

コロナ禍は、世界一斉社会テストのようなもので、いろいろなものをあぶりだしました。

コロナ対策がうまくいってる国に共通していることは

検査・測定・調査して調べること、それを共有すること、情報公開、議論の可視化、決定のプロセスを公開すること。

判断の過程が公開されることで、私たちはその決定を支持するかどうか判断できます。

決定がおかしければ、どの段階で、どの情報、どの意見が支持できないのかも指摘できます。

原発事故もコロナ禍も、十分に調べられず、検査もデータも不十分、

議論は可視化されず、突然出される論拠のわからない決定に、私たちは振り回され、踏みにじられます。

いつまでこれを続けるの？？

まず、私たちが変わりましょう。

いろいろなことに関心を持ち、監視をし、自分で調べて考えて話し合っていきましょう！ まずは半径5mから。



©KEN O

おしどり ホームページ <https://www.oshidormako.page/>

OSHIDORI Mako&Ken Portal / おしどりポータルサイト <http://oshidori-makoken.com/>

おしどりマコ&ケンの「脱ってみる？」<http://www.magazine9.jp/category/article/oshidori/>

おしどりマコ・ケンの脱ってみる？デイリー <http://daily.magazine9.jp/m9/oshidori/>

twitter

おしどりマコ @makomelo

おしどり♂ケン @oshidori_ken

石川県保険医協会主催
<原発・いのち・みらいシリーズ講演会>

福島原発事故の小児甲状腺検査の問題点 —チエルノブイリ原発事故医療支援の経験を通して—

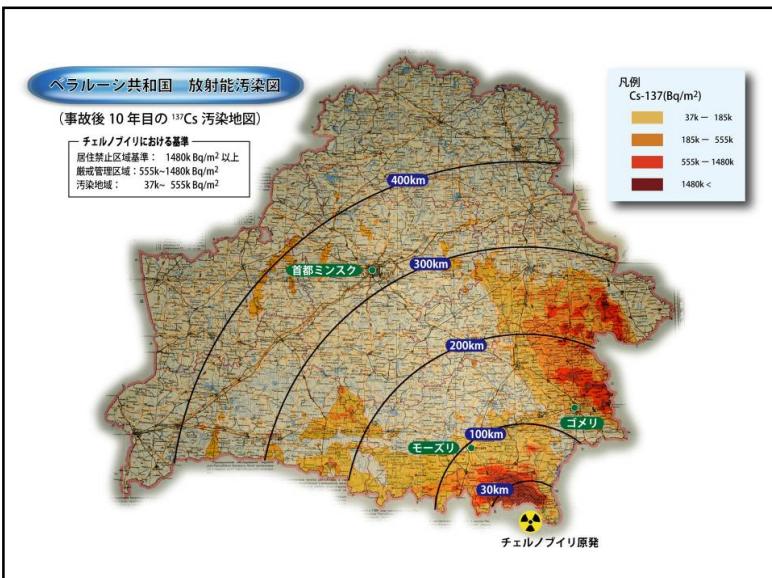
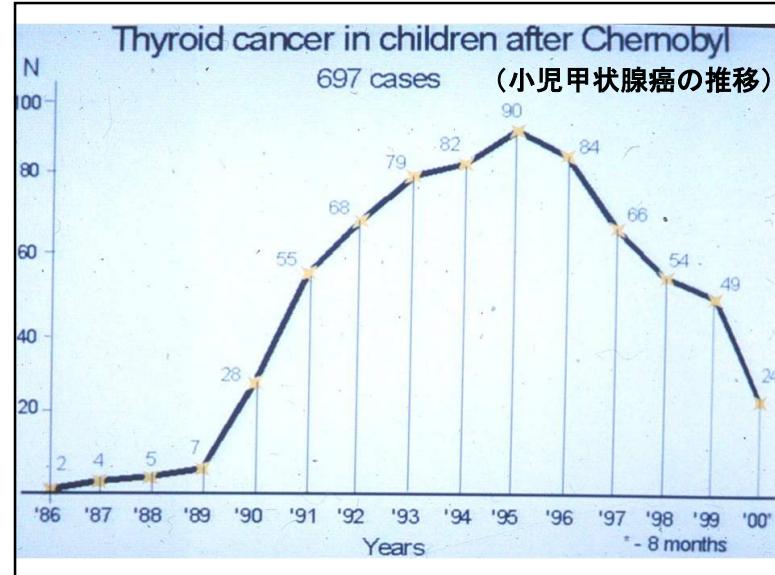
菅 谷 昭
(2021年3月14日)



<何も知らない子どもたち!>



<小児甲状腺検診>



—— 2016 年 ——

チエルノブイリ原発事故から
30年が経過した節目の年。
私は自身の目で現在の姿を
確かめるため、7月初旬、
ベラルーシを訪れました。



ゴメリ州ベトカ地区<居住禁止区域>

今もって「進入禁止」の表示！
(高度放射能汚染区域につき立ち入り禁止)



村へ続く道路沿いの草木は手入れもされず伸び放題。
道路脇の空間放射線量は0.4マイクロSv／時。



「チェルノブイリの子どもたちを救う会」を訪問

チェルノブイリ事故による子どもたちの健康被害等の
実態調査や支援活動を継続しているボランティアの会



地区病院長の男性医師：「ベラルーシでは汚染地の子どもたちに毎年
1ヵ月程度の健康保養を、国の責任として無料で実施しています。
日本では何故そのような国家的プロジェクトを実施していないのか」

会代表の女性小児科医：「市民一人ひとりが放射能の影響や健康を
守るための手段について、より深く学ばなければいけません」



ゴメリ州立保健局を訪問

局長のワシリコフ医師と面会し、ゴメリ州住民の健康状況の現状について意見交換。懇談の終りに、局長は「国家は人々に対して背を向けてはいけません」ときっぱり！果して日本は一体どうでしょうか。

ベラルーシ共和国保健省母子部門部長 ゴメリ州保健局副局長の報告

汚染地域居住の子ども(6歳～17歳)に対し、国による年2回の定期健診を継続

<1回目> 内分泌専門医の診察。併せて眼科および歯科検査。
また必要があれば、小児科医の診察。
甲状腺超音波検査、血液および尿検査等。
ホールボディカウンターは希望者に実施。

<2回目> 小児科医による健診が主体。必要があれば、甲状腺検診等を実施。

この定期的な診察や諸検査において異常が確認された場合には、
国の上級医療機関にて更なる精査を実施し、適切な治療などが
行われている。

他の健康に対する国家的施策

- ◎汚染地で生活を継続している18歳以上の住民に対しても、年1回の定期健診を実施。
- ◎汚染地域に暮らす子どもたちに、毎年1か月、非汚染地での保養を実施。

なお、これらの健康管理対策にかかる費用は全て国家の負担としている。

福島原発事故後の今とこれからを考える

◎現在の福島の子どもたちの健康・甲状腺がんについて

- ・ 甲状腺がん: チェルノブイリでは、10年目に事故によると認定現段階では、「自然発生がん」と「放射線誘発性甲状腺がん」を、病理組織学的所見や遺伝子解析によって区別することは不可能。従って現時点で原因を特定することはむずかしい。
今後の経過を注視していくことが大切(疫学的事実の集積が必要)。
国や県においては、定期検査等にもっと力を注ぐべきである。
- ・ 非がん性疾患: 長期的・持続的低線量被曝の影響を注視
非がん性の健康障害に対しても、その対応策が不可欠(チェルノブイリ事故後の現状を考慮)。併せて関連諸検査結果の公表を強く願う。

甲状腺超音波検査の必要性

本検査の実施を、「過剰診断」という表現を用いて疑問視している県民健康調査検討委員がおられることがあるが、そもそも福島県において、なぜ小児に対してこのような集団的超音波検査が必要とされるかについて、深く考慮していただきたい。

2011年3月11日、福島第1原発で事故が発生したことによって、放射性物質による環境汚染の可能性がある地域における小児甲状腺への影響の有無について、長期にわたり経過観察を継続すべき疫学的調査としての必要性があるために実施するものである。

甲状腺超音波検査の意義

本検査の長期的観察結果は、今後、万一国内外において、新たな原発事故が発生した場合、小児甲状腺の健康被害対策における極めて有用な参考となる。併せて、福島の原発事故による健康への影響に関する記録を残す意味においても不可欠な調査である。

外科的治療の適応

わが国の甲状腺関連学会等における甲状腺癌の手術適応の基準が定められていると考えられるので、その指針に従って適切な治療方針(甲状腺の切除範囲やリンパ節郭清等)を選択決定すればよい。

＜甲状腺外科検討会：甲状腺癌取扱い規約＞ III. 発見動機による甲状腺癌の分類

甲状腺癌は発見動機により以下の4群に分けられる。

オカルト癌 occult carcinoma

諸臓器転移巣による臨床症状が先行するため原発巣を検索したが発見されず、その後それらの原発巣として甲状腺癌が発見された症例。

偶発癌 incidental carcinoma

切除あるいは摘出された甲状腺組織の病理学的検索により初めて発見された癌。

ラテント癌 latent carcinoma

生前臨床的に甲状腺癌の徵候が認められず、死後剖検により初めて甲状腺癌の存在を確認した症例をいうが、総論B.の項に従い、本規約の対象とはしない。

なお、オカルト癌、偶発癌、ラテント癌はその多くが微小癌であるが、長径1.0cmをこえる癌の場合もある。

臨床癌 clinical carcinoma

上記以外の癌、すなわち臨床的に甲状腺癌と診断され、組織診でも甲状腺癌が確認された症例。

終りに: 私の小さなつぶやき

- ・ チェルノブイリ原発事故による人の健康や生活環境等への影響は、事故後35年経過した今もなお収束したとは言い難く、引き続き長期にわたる注意深い経過観察が不可欠であると思います。
- ・ 福島の事故は、わずか10年が経過したにすぎません。 チェルノブイリ事故後の汚染地の現状を教訓にして、残念ながら国の対応に期待が持てない以上、国民一人ひとりが放射能災害にもっと関心を強め、たとえ時間がかかるとも、子どもたちの未来を守るためにこの国難に立ち向かう時が到来しているのではないでしょうか。チェルノブイリの現状は、福島の25年後の姿か…。

出前講座 の ご案内



講師を派遣します！



- ◆ 石川県保険医協会(医師・歯科医師1,030人の団体)は、東電福島原発事故を受けて、2012年7月に「原発・いのち・みらいプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトでは、原発事故や福島県民健康調査や Chernobyl 原発事故の健康影響等の資料を収集し、「医師の立場から市民の皆さんに発信できることはなにか」を中心に検討を重ねています。
- ◆ 私たちは、これまで学んできたことなどを伝えながら、私たちの未来についてともに考え、行動していきたいと思っています。
- ◆ 少人数でも結構ですので、ぜひ勉強会を企画し、講師派遣の希望をお寄せください。

原発・いのち・みらいプロジェクトは こんな活動をしています！

☆市民公開講演会の開催

小出裕章さんや東京新聞デスク等をお呼びし、過去14回の市民公開講演会を開催(2017年12月現在)。



☆講演会・ミニ講座の講師として

低線量被ばくの健康影響や、原発と核兵器等をテーマに県内外、福島でも講演活動を実施。

☆情報発信

これまで学んできたことや講演会の報告、メンバーの活動などを、当会の機関紙「石川保険医新聞」の「原発・いのち・みらい」シリーズで連載し、記事をホームページで公開しています。

2012年7月、原発・いのち・みらいプロジェクト第1回目の会議の様子。福島原発事故以降のそれぞれの活動を報告し合い、医師の立場として今後何ができるのかを活発に議論しました。その後、隔月で会議を開き、福島県の県民健康調査結果や Chernobyl 原発事故の健康影響等について資料収集し、検討を重ねています。

- ◆ 出前講座の相談・お申込みは裏面から・・・

石川県保険医協会は県民医療・福祉の向上のため、様々な活動を行っている医師・歯科医師約1,030人の団体です。

石川県保険医協会

〒920-0902 石川県金沢市尾張町2-8-23 太陽生命金沢ビル8階
TEL 076-222-5373 FAX 076-231-5156 E-mail ishikawa-hok@doc-net.or.jp

<http://www.ishikawahokeni.jp/>

「原発・いのち・みらい」をテーマとした出前講座

内 容 : 低線量被ばくの健康影響、核被害の実相や核をめぐる国際情勢など

講 師 : 石川県保険医協会「原発・いのち・みらいプロジェクト」メンバーの医師

経費等 : 講師料は無料です。交通費については別途相談に応じます。

※会場の準備、参加者募集は、貴方にてお願ひします。

申込方法: 開催希望日の2か月前ごろまでに、以下の「講師派遣申込書」により FAX、Email、郵送のいずれかでお申し込みください。申込書の受付後、詳細相談のご連絡を差し上げます。

申込先 : 石川県保険医協会 〒920-0902 石川県金沢市尾張町 2-8-23 太陽生命金沢ビル8階
(FAX) 076-231-5156 (E-mail) ishikawa-hok@doc-net.or.jp



講師派遣 申込書

申込日	年 月 日		
所在地	〒		
団体名		代表者名	
連絡先	電話	担当者名	
	FAX		

次の通り希望します。

開催希望日	◆第1希望 : 年 月 日()
	午前・午後 : ~ :
	◆第2希望 : 年 月 日()
	午前・午後 : ~ :
開催場所	(1) 会場が未定の場合、【 】に開催予定地（市町名）をご記入ください 【 】市内・町内 で開催予定
	(2) 会場が確定している場合、以下をご記入ください 会場名 :
	所在地 :
	連絡先 :
	駐車場の有無 : 有り ・ 無し
受講予定者	名 (歳代~ 歳代)
希望の講演内容	
備考	